

はじめに

この報告は出島村下大津地区における土地利用、農業経営、生活行動に関する調査を主な内容としている。われわれの共同研究グループは昨年度からこの地区において、最近における農村の姿を観察してきた。

わが国の農村は1960年代の高度成長期に著しく変化した。その最も顕著な側面は農家の兼業化に関するものであった。農外就業の深化を軸にして農業経営は変化した。その過程で農村と農家の生活形態は再編成され、農業生産の基盤と組織が整備されてきたといえるであろう。機械化、自動車化もこの過程を促進する要因として機能してきた面が多い。この過程はまた一方で、農業経営に専念する自立型の経営の形成をともなってきた。こういった農業と農村の変わり行く様相は調査地区でもよく観察される事実である。

この地区は土浦市の中心部から6.5 kmの郊外に位置し、霞ヶ浦湖岸の低地と洪積台地および台地をけずる谷からなる。地区内には工業団地があり、土浦市の郊外として、都市化の影響も強く、一般住宅が増加しつつあるが、全般的には農村の景観が卓越している。就業や所得の面ではともかくとして、景観的には農村の色彩がきわめて濃く感じられる。松を主とする平地林にとりかこまれた集落のたたずまいが、生活環境の好ましさを強く印象づける地区である。

下大津地区には特筆に値する農業生産形態がいくつかある。その最たるものは霞ヶ浦沿岸低地と谷津田における蓮根栽培であろう。機械化稲作体系が確立され、能率が向上するにつれて、水稲栽培における専業経営は数少なくなってきた。しかし、水田における蓮根栽培では、専業は比較的高い割合で存在している。もう一つの注目し値する農業形態は多種類の作物の組合せによる複合経営である。水田耕作と畑作が組み合わせられる経営が一般的なことから、水稲、蓮根、野菜、さつまいも、麦類、ラッカセイ、梨、栗、桑、施設による花卉など、多種類の作物がしばしば多様に組み合わせられており、複合の形態はバラエティーに富んでいる。この複合形態の分化は土地条件の違いにも根本的なつながりがある。この農業形態のうち、とりわけ専業的な自立経営について詳しく観察することは意味のあることのように思われる。その形成はしばしば農家の階層分化をひきおこす原因になる。

村の生活の実態と変化傾向は、端的に、日常の生活行動を通して観察されるであろう。生活行動はその目的・機能により、多方面にわたっており、時間的、空間的に細かく分けて観察しなければならない。この観察では、とくに伝統的、共同体的な形態のうちで変わった面、あるいは変りつつある面と、変らない面に注目しなければならないであろう。年令層、就業形態による生活行動の差も、自家用車普及の生活行動への影響と並んで、興味深い観察の対象である。

ミクロな地域の記載は地理学における伝統的な課題である。対象とする地域に存在する諸々の事象が相互に影響しあい、一つのまとまり（サブシステム）を構成するという予想のもとづいて、諸事象を記述し、全体像を描き出すことを目指すのであるが、その際とくに強調する点がいくつか存在するのが常であるようにみえる。人口構造、土地利用、生産活動、生活様式、居住形態、環境への適応形態、景観、地域（空間）組織などがそのよう

な強調点としてとりあげられたものであった。以下にあげる諸事項は、われわれのグループが出島村から始める霞ヶ浦地域の村落調査で実施したい、あるいはそうすることが望ましいと考えた調査のフレームワークである。それは、オイルショック以後、この地域では安定期に入った農村の特質が、これらの事項に注目することでとり出せるであろう、という見方にもとづいている。

〔A〕生態学的基礎とその変遷

- 1) 立地位置 (situation) と立地場所 (site)。
- 2) 歴史的変遷。

〔B〕生活行動

- 1) 生活行動を発生させる生活機能として
 - ①労働・生産。②教育。③消費。④つき合い(自治など)。⑤再生産・休養。⑥交通。
- 2) 各機能ごとに発生する生活行動をとらえる枠組として、
 - ①時間的なサイクル：日々、週、月、季節、年、一生。②空間的な広がり：部落、地区、村、広域圏、県内、首都圏、日本、外国。③景観、施設の側面。④空間組織。⑤歴史的変遷。

〔C〕生業パターン

- 1) 資源基盤としての土地 — 土地所有、土地改良、土地に対する概念など。
- 2) 土地利用パターン — 土地利用の生態、土地利用の変遷。
- 3) 農業
 - ①農業生産：水田利用(稲・蓮根)、畑作・園芸、養蚕など。
 - ②農業経営：自立農業経営、階層分化、兼業、農業組織、機械化、農業収入、農地の所有・経営状況、農地の流動化など。
- 4) 漁業 — 漁ろう、養殖、水産加工。
- 5) 商工業・観光。

〔D〕居住パターン

- 1) 人口 — 人口分布、人口構造、人口移動、村落の人口特性。
- 2) 村落景観。

〔E〕村民意識の変化と農村計画・農村整備

〔F〕村落環境

環境資源、環境問題、環境評価、環境のパーセプション、環境計画など。

なお、現地調査に際しては、坂本重道村長のご厚意により、出島村役場の関係各課で種々の便宜をはかっていただいた。企画課の 渡辺 馨課長、殿岡穂積氏、栗山正光氏、経済課の中根正吾課長、教育委員会の 福田利雄教育長をはじめ、ご協力くださった多くの方々には厚くお礼申し上げます。また、調査の中心となった戸崎・大前・内加茂の3部落では、部落長の 大久保喜久雄氏、大和田光三氏、宮本祐一氏をはじめ、多くの方々にご協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である。

1980年3月

山 本 正 三